



S.Suzuki

THE NEGISHI STAKES

第38回 根岸ステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 40,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,000,000円 4,000,000円
付加賞 560,000円 160,000円 80,000円



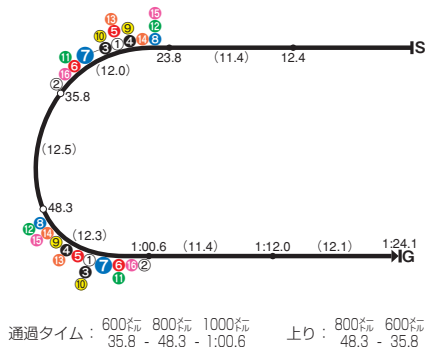
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 4歳56⁺・5歳以上57⁺、牝馬2⁺減、2023.1.28以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬2⁺増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬1⁺増、2023.1.27以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬1⁺増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.1.28 東京 曇・良 ダ1400⁺ (国産) (指定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600 ⁺)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	エンペラーワケア	牡	4	56	川田将雅	1:24.1	5-5	35.2	534(±0)	2.5①	杉山晴紀(栗東)	111
2	⑩	アームズレイン	牡	4	56	松若風馬	2 ¹ / ₂	2-2	36.0	506(-4)	14.1⑥	上村洋行(栗東)	106
3	⑩	サンライズフレイム	牡	4	56	藤岡康太	1 ¹ / ₂	6-6	35.4	512(+4)	3.9②	石坂公一(栗東)	105
4	②	ヘリオス	騾	5	57	武 豊	1 ¹ / ₂	1-1	36.4	482(+2)	31.1⑦	西園正都(栗東)	104
5	③	フルム	牡	5	57	水口優也	1 ¹ / ₂	6-6	35.7	484(+4)	28.9⑦	浜田多実雄(栗東)	
6	⑤	ベルダーイメル	牡	7	57	柴田善臣	クビ	8-9	35.6	470(+12)	51.9⑩	本田 優(栗東)	
7	⑧	ジャマル	牡	6	57	川須栄彦	1 ¹ / ₂	3-3	36.3	510(+10)	38.3⑧	松下武士(栗東)	
8	④	アルファム	牝	5	55	菅原明良	クビ	13-13	35.1	466(±0)	8.9④	佐々木晶三(栗東)	
9	⑪	バライバトルマリ	牝	4	54	戸崎圭太	クビ	3-3	36.4	506(-6)	12.6⑤	林 徹(美浦)	
10	④	ライラボンド	牡	5	57	小林勝太	1 ¹ / ₂	11-10	36.0	528(-2)	472.2⑫	杉浦宏昭(美浦)	
11	⑪	アイオライト	牡	7	57	団野大成	1 ¹ / ₂	8-6	36.5	498(+6)	83.8⑨	武藤善則(美浦)	
12	⑩	オマツリオトコ	牡	4	56	石川裕紀人	ハナ	8-10	36.2	494(±0)	210.9⑬	伊藤圭三(美浦)	
13	⑫	タガノビューティー	牡	7	57	石橋 脩	クビ	14-15	35.4	520(+2)	4.9③	西園正都(栗東)	
14	⑧	ピアシク	牡	8	57	落合玄太	クビ	14-15	35.5	502(-14)	611.1⑭	森 秀行(栗東)	
15	⑨	エクロジャイト	牡	4	56	横山武史	3	11-12	36.5	502(-10)	168.9⑮	安田隆行(栗東)	
16	⑬	ケンシンコウ	牡	7	57	田辺裕信	1 ¹ / ₂	14-13	36.5	502(+2)	225.4⑯	小西一男(美浦)	

単勝⑦250円(1¹/₂) 複勝⑦130円(1¹/₂) ⑩300円(6¹/₂) ⑪160円(3¹/₂) 枠連④-⑦1,630円(6¹/₂)
馬連⑦-⑩1,660円(4¹/₂) ワイド⑦-⑩600円(5¹/₂) ⑦-⑩270円(1¹/₂) ⑩-⑬990円(12¹/₂)
馬単⑦-⑩2,080円(5¹/₂) 3連複⑦-⑩2,070円(4¹/₂) 3連単⑦-⑩9,390円(19¹/₂)
5重勝⑦⑩⑪④⑦347,220円(1,391票) 対象競走：京都10R/東京10R/小倉11R/京都11R/東京11R



通過タイム：600⁺ 800⁺ 1000⁺ 上り：800⁺ 600⁺
35.8 - 48.3 1:00.6 (11.4) 1:12.0 (12.1) 1:24.1

アラカルト

- ・川田将雅騎手はレッドルゼルで制した21年に続く根岸S 2勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算133勝目
- ・杉山晴紀調教師は根岸S初勝利。JRA重賞は同日に行われたシルクロードSに続く通算19勝目。なお、調教師のJRA重賞1日2勝は上村洋行調教師による23年12月2日(チャレンジC、ステイヤーズS)以来のこと
- ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算68勝目
- ・4歳馬の勝利は19年コパノキッキングに続く通算8回目
- ・非抽選馬 3頭(オセアダイナスティ、ジャスパーゴールド、ボイラーハウス)
- ・エンペラーワケアはフェブラリース(GⅠ)に優先出走できる

エンペラーワケア Emperor Wakea

牡 鹿毛 2020.5.2生
北海道日高町 下河辺牧場生産
馬主・草間庸文氏 栗東・杉山晴紀厩舎
馬名意味・皇帝+ハワイの神様の一人

カラズマッチポイントUSA系 F23

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サルトガデューUSA
カラズマッチポイントUSA Kara's Match Point 栗毛 2010	Curlin 栗毛 2004	Smart Strike Sherriff's Deputy
	Home Court 栗毛 2001	Storm Cat Jewel Princess

5代までのインブリード：Storm Cat S3×M3 Mr.Prospector S4×M4

INTERVIEW

下河辺隆行 専務(下河辺牧場)

これからも楽しみが広がります

本馬とサンライズフレイムと生産馬2頭が出走、しかも1、2番人気でしたのでとても緊張しながらレースを見ていました。2頭とも頑張っしてほしいというのが正直な気持ちでしたが、最後に抜け出してきた本馬を見て本当に力をつけたなと実感しました。生まれた頃からバランスの取れた馬で順調に育ちました。先のある馬だと思いますので、これからも楽しみが広がります。

T.Miki



芝の初陣は5着に敗れたものの、ダートに予先を転じた2戦目は10馬身差で圧勝。以降はダートの1400m戦に照準を定めた本馬は、5戦4勝2着1回と素晴らしい勢いで出世の階段を駆け上がってきた。初めて重賞に挑んだこの日は、関東への長距離輸送、初の東京コースといった未知の課題もまとめてクリア。反動を考慮し、フェブラリースペシャルの参戦は見送られることが決まったが、昨年のレモンポップと同様、今回の勝利はさらなる飛躍への足掛かりとなりそうだ。

芝の初陣は5着に敗れたものの、ダートに予先を転じた2戦目は10馬身差で圧勝。以降はダートの1400m戦に照準を定めた本馬は、5戦4勝2着1回と素晴らしい勢いで出世の階段を駆け上がってきた。初めて重賞に挑んだこの日は、関東への長距離輸送、初の東京コースといった未知の課題もまとめてクリア。反動を考慮し、フェブラリースペシャルの参戦は見送られることが決まったが、昨年のレモンポップと同様、今回の勝利はさらなる飛躍への足掛かりとなりそうだ。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央、香19戦13勝(香港スプリント^{G1}2回、安田記念^{G1}、スプリンターズS^{G1}2回、高松宮記念^{G1})、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20～23年日本リーディング2位〔代表産駒〕アーモンドアイ(ジャパンC^{G1}2回、ドバイターフ・首^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}2回、桜花賞^{G1}、オークス^{G1}、秋華賞^{G1}、ヴィクトリアマイル^{G1})、サートゥルナーリア(皐月賞^{G1}、ホープフルS^{G1})、ダノンスマッシュ(香港スプリント^{G1}、高松宮記念^{G1})、パンサラッサ(ドバイターフ・首^{G1}、サウジC・沙^{G1})、ステルヴィオ(マイルチャンピオンシップ^{G1})、タガロア Tagaloa(ブルードイヤモンドS・豪^{G1})、ファストフォース(高松宮記念^{G1})、ブレイディヴェグ(エリザベス女王杯^{G1})、ダノスコーピオン(NHKマイルC^{G1})、レツドルゼル(JBCスプリント^{JRA})、他に重賞勝ち馬多数

母カラズマッチポイントUSA

北米14戦1勝。16年輸入

ルミナスソードUSA(16 牝父Candy Ride)中央1戦0勝
サンライズラボール(17 牝父Constitution)持込 中央23戦4勝(テレビ静岡賞、吾妻小富士S^{G2}2着)、地方3戦0勝(棋津盃3着)
アレグリッシュモ(18 牝父ドウラメント)中央1戦0勝
アスクオンディーブ(19 騊父ディーブインパクト)中央10戦2勝 ⑩
エンペラーワケア 本馬(20 牝父ロードカナロア)中央7戦5勝(根岸S^{G3}、御影S、ドンカスターC) 獲得総賞金93,716,000円
(23 牝父エビファネア)
※21(前年種付せず)、22(不受胎)

祖母ホームコート Home Court

アメリカ産 北米2勝(アイオワオークス^{G3}3着)
エンクロージャー Enclosure(07 騊父Unbridled's Song)北米5勝
カラズマッチポイントUSA(10 前出)
クードグラス Coup de Grace(11 牝父Tapit)北米5勝(アムステルダムS^{G2}、ベイショアS^{G3}、オーセイS、キングズビショップS^{G1}3着)
ダンシングラグズUSA(14 牝父Union Rags)北米2勝(アルシバアイデアーズS^{G1})、輸入繁殖牝馬

曾祖母ジュエルプリンセス Jewel Princess

アメリカ産 北米13勝(BCディスタフ^{G1}、サンタマルガリータH^{G1}、ヴァンティH^{G1})、米古牝馬チャンピオン、ワンナイスキャット One Nice Cat(ボリネシアンS・米)、マリスター Maristar(ワシントンパークH・米^{G3}2着)の母

前途への期待を膨らませる重賞初勝利

昨年はレモンポップが重賞初制覇を果たし、その後の飛躍へのスプリングボードとした根岸Sは、前週の東海Sと同様に新星たちが中心勢力を形成。重賞初挑戦の4歳馬エンペラーワケアとサンライズフレイムが1、2番人気の支持を集め、オープン特別3勝をマーク、昨年のかしわ記念、武蔵野Sで2着に追い込んだ古豪タガノビューティーが実績馬の代表格と目された。結果はエンペラーワケアが1番人気の支持に依って完勝。横綱相撲といえる取り口で重賞の壁を突き破り、前途への期待を大きく膨らませた。

2年前の2着馬ヘリオスが主導権を握ったレースはゆったりとした流れで迎えた直線はマイペースの逃げを打ったヘリオスと、2番手のアームスレーンが競り合う形勢に。とはいえ、馬なりの手心で差を詰めてきた川田騎手が仕掛けると、エンペラーワケアも鋭く反応。前の2頭を呑み込み、残り200m地点で先頭に躍り出る。4コーナーの加速で後れをとったサンライズフレイムは、3着に巻き返すのが精一杯。2着に粘り込んだアームスレーンの反撃も寄せ付けず、エンペラーワケアが危なげのないフィニッシュを決めた。

芝の初陣は5着に敗れたものの、ダートに予先を転じた2戦目は10馬身差で圧勝。以降はダートの1400m戦に照準を定めた本馬は、5戦4勝2着1回と素晴らしい勢いで出世の階段を駆け上がってきた。初めて重賞に挑んだこの日は、関東への長距離輸送、初の東京コースといった未知の課題もまとめてクリア。反動を考慮し、フェブラリースペシャルの参戦は見送られることが決まったが、昨年のレモンポップと同様、今回の勝利はさらなる飛躍への足掛かりとなりそうだ。